

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長崎県長崎市尾上町3-1
管理機関名 長崎県教育委員会
代表者名 教育長 平田 修三

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年4月1日（契約締結日）～ 令和4年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 長崎県立松浦高等学校
学校長名 小野下 和宏
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

松浦高校『まつナビ・プロジェクト』

4 研究開発概要

長崎県立松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めること等を目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させる。次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。

Ⅰ 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発

Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- | | | | |
|-------------|--------|---|---------|
| ・学校設定教科・科目 | 開設している | ・ | 開設していない |
| ・教育課程の特例の活用 | 活用している | ・ | 活用していない |

(2) 実績の説明

- ① 5名の運営指導委員を人選し、年2回の会議を実施。
- ② コンソーシアム構成機関の代表によるコンソーシアム会議を開催し、指定校との協力体制について確認。
- ③ 指定校における課題研究構想発表会（5月）、課題研究中間発表会（10月）、課題研究校内発表会（1月）、課題研究発表会（3月）に講評者や審査員として参加、その後、連携機関、学校の管理職・担当者と協議。また、7月には校内での活動の様子を参観した。
- ④ 令和3年度研究指定等に係る研究報告会（オンライン）にて、取組状況の報告及び研究協議。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目		実施日程												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年	㊸地域素材を活かした授業実践				1回		随時実施							
	㊹フィールドワークを含む課題研究活動に関する技能習得	1回	2回											
	㊺松浦市内バスツアー			3回	1回		1回	1回						
	㊻研究テーマ設定								2回	2回	2回		1回	
2年	㊼研究構想	1回	2回	1回										
	㊽フィールドワーク			1回	1回	1回		1回	1回	1回				
	㊾中間発表・振り返り						2回	2回						
	㊿校内発表・振り返り								3回	2回	2回			
3年	㊿2年次の研究成果に関するレポート作成		1回					1回						
	㊿校内発表における提案事項の校外実践							1回	2回	2回				
	㊿小・中学校等における実践発表							2回						

(2) 実績の説明

① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

- ・㊸については、地域素材の活用に加えて、まつナビ・プロジェクト（MNP）で育成を図る資質・能力（「コミュニケーション力」、「課題発見力・テーマ設定力」、「論理的思考力」）の育成、及び生徒の1人1台パソコンを使って、情報通信技術を効果的に活用した、分かりやすく深まる授業の実現等技能を高めるために、授業の準備を、今年度当初から全学年で進め、7月にチャレンジ授業、11月に全教職員による公開授業及び意見交換を行った。＜開発単位Ⅰ＞

【授業実践例】

教科・科目 実施日	授業内容	MNPとリンクする教科の授業実践における具体的な目標
チャレンジ授業 地理B 7月14日	世界の環境問題から、松浦市の環境問題について考え、パワーポイントを作成し、それを自分の言葉で発表する。	地域素材を活用して具体的な課題を見つけることができるようになる。等
公開授業 英語表現I 11月18日	1人1台タブレット端末を使い、教えた文法事項を使って、英作文しその場で添削を行う。	論理的な思考で課題に取り組むことができるようになる。
公開授業 体育 11月5日	バスケットの授業において、3対2、4対3等のアウトナンバーの攻防が理解できるか。	みんなの前で論理的に発表ができるようになる。

- ・㊦については、1年生がまつナビ・プロジェクトの概要やその進め方を知るために、4月28日には、KJ法等を使った基礎的な課題研究の手法や今後の課題研究活動の進め方を学ぶために、中学生のときに行った「ふるさと学習」の振り返りを行った。5月26日には、3年生によるまつナビ・プロジェクト概要説明会を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㊧については、松浦市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行うために、生徒が企画した、陸、水、街、島といったルートに分かれてバスツアーを実施し、その後、見学した内容等をまとめ、発表会を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

【ツアー内容】

ルート名	見学先
陸	風力発電所→JR九州ファーム→世知原炭鉱資料館等
水	志佐川河畔公園→笛吹ダム→柚木川内キャンプ場等
街	平戸市街地→松浦市街地
島	鷹島→松浦市立埋蔵文化センター→モンゴル村等

- ・㊦については、地域課題の解決に向けて、「自分ごと」として研究活動を進めるために、これまでの学習を参考として、ファシリテーターの支援を受けながら、テーマ設定を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㊧については、1年次に設定した課題研究テーマについて、今後の活動方針を示すために、課題研究の内容等について発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、振り返りを行うとともに、以後の研究の進め方について検討した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㊨については、今後の研究の充実に向けた情報の収集とコミュニケーション力を育成するために、生徒が事業所等の見学や体験、インタビューなどを計画し、実施した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㊩については、課題研究の方向性等について確認するために、研究の進捗状況等について発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、研究の振り返りを行うとともに、以後の研究の進め方について検討した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉
- ・㊪については、生徒がプレゼンテーション力や表現力などの発信力を身に付けるとともに、研究内容について校内で情報共有するために、課題研究活動の成果、実践についての発表会を実施した。なお、生徒の課題研究のより一層の充実を図るために、校内発表会前に鹿児島県立大島北高等学校とのリモートによる意見交換を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

【発表テーマ例】

- ・松浦わくわく・どきどき・みらいごっこ～小学生とともにイベント開催～

- ・国際交流～オーストラリアの高校生とのオンライン協議会～
- ・松浦をどうやって盛り上げるか～松浦鉄道に松浦タータンチェックをラッピング～
- ・こどもにやさしいまちづくり
- ・住みやすいまちに～松浦駅に手すりをつける～

①では、「自分と将来」について考えるとともに、ふるさとへの思いを大学進学や就職など実際の進路実現に反映させるために、キャリア開発に向けて作成した本校独自の「ポートフォリオ」に3年間の研究の成果をまとめた個人レポートを作成した。なお、生徒の課題研究活動を深化させるために、本校図書館で選書を行い、不足している資料をPC等で検索し、内容を検討して、これを一覧表にまとめて購入提案した。このように昨年度設置した、課題研究活動（まつナビ・プロジェクト）コーナーをさらに充実させた。〈開発単位Ⅰ〉

①では、前年度の研究活動において提案していた、松浦市での起業や民泊を薦めたり、観光案内及び水産資源を紹介したりするために、ポスターやチラシを作成し、松浦市役所をはじめとする市内各所に掲示した。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

④では、中学校との連続性のある、地域に関する学びを構築するために、コンソーシアム構成員の支援を受けて、松浦市内の中学2、3年生の生徒に対して、これまでの地域課題解決学習の成果の発表を行った。〈開発単位Ⅰ、Ⅱ〉

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

学校設定科目である「まつナビ（2年生）」「プレまつナビ（1年生）」（毎週水曜日7校時目）を中心に、地域との協働による探究的な学びを進めた。発表会（準備）や校外活動を行う場合には、水曜日6校時目の総合的な探究の時間も含めながら、連続する活動時間を設定した。各教科・科目においては、「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築することを目指し、地元の火力発電所等を教材として、環境問題とエネルギー問題について学ぶなどといった、地域素材の活用を含む、設定した資質能力の育成を図るための授業実践に取り組んだ。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

各教科・科目において、地域との協働による探究的な学びである「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築するため、育成を図る資質・能力として、「課題発見力（テーマ設定力）」、「論理的思考力」、「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」を設定した。例えば、1年生の英語表現Ⅰの授業では、1人1台パソコン使い、英作文などの作成などに取り組んだ。このように資質・能力の育成を図る授業実践を各教科・科目の授業に組み込むことで、各科目における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とすることを目指した。その充実を図るために、7月に「チャレンジ授業月間」を行った。また、11月には「公開授業月間」において、全教職員で公開授業を実践し、意見交換を進めた。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

地域ならではの新しい価値を創造する人材として不可欠となる、地域を大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めるために、高校3年間を通じた地域課題解決学習を行った。

1年生では、「地域ならではの課題」についての基礎的な知識や課題解決型学習を進めるための技能を身に付けるための校内外の学習を行った。また、2年次の課題研究テーマ設定に向けて、カリキュラム開発等専門家による研修会を行った。

2年生では、設定したテーマに基づき、コンソーシアムの協力を得るなどして、フィールドワークを含む研究活動を計画的に進め、校内発表会において課題の解決策等について提言や実践活動の報告を行った。

3年生では、2年生の活動を個人研究としてまとめるとともに、地元中学生に研究成果をプレゼンテーションするなどの地域貢献活動にも取り組んだ。

このような研究活動を経て、ここ数年は地元企業・官公庁へ就職したり、地域活性化について研究する大学・学部へ進学したりするなど、地域活性化への道を志す生徒が増えた。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・「まつナビ・プロジェクト（MNP）だより」発行（5回発行）

生徒の活動状況を伝えるために、松浦市内外の小・中学校に配付したり、本校ホームページ上に掲載したりした。なお、今年度の記事は全て生徒が分担して作成した。

- ・Web発信

ホームページ上に「まつナビ・プロジェクト」専用のフォルダを作成して、生徒の活動状況を地域などに広く伝えるために随時更新を行った。

- ・校内発表会（1月19日実施）

松浦高校コモンホールで実施。生徒が研究・実践した内容について2年生10班（13プロジェクト）の研究発表を実施した。コロナ禍を踏まえ、参観者は、校外審査員3名に限定し、その他の2年生、1年生は校内オンラインで参加した。

なお、当発表会で選出された5つのプロジェクトは、長崎県内の公立高校教職員や松浦市内小中学校の教職員と研究内容を共有すること、また、松浦市の施策に生徒の提言を反映させるために、2月10日（木）開催予定していた課題研究発表会は新型コロナウイルス感染状況の拡大防止を考慮して延期とした。（3月17日（木）に松浦市文化会館ゆめホールにて実施予定）

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「まつナビ・プロジェクト」を中心に据え、本校の教育活動全般において育成を図る資質能力を「課題発見力・テーマ設定力」「論理的思考力」「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」と設定した上で、カリキュラム等開発専門家である長崎大学准教授等や学年副主任やキャリア形成部といった、校内外のメンバーで構成される組織の協力を得ながら、地域との協働による探究的な学びをより充実させることを目的とした、PDCAサイクルにもとづく、カリキュラム・マネジメントを推進した。

校内においては、キャリア形成部と学年副主任で組織する「プロジェクトチーム」が中心となって、課題研究活動を含む校内外の教育活動全般の企画・実施・評価について検討した。また、松浦市政策企画課を加えた「ワーキンググループ」において、実施計画等について再検討の後、コンソーシアムに「まつナビ・プロジェクト」における活動内容等について報告し、今後の研究活動等の進め方についての協議を行った。また、運営指導委員

会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指してきた。

なお、「まつナビ・プロジェクト」の各研究活動においては、市民ファシリテーターやカリキュラム開発等専門家、地域協働学習支援員を交えた「ワーキンググループ」での振り返りを行い、研究活動の改善を図った。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

年度当初に本事業についての職員全体研修を行った。また、松浦市主催の「まつうら未来会議」に教職員も積極的に参加して、市民と交流することでファシリテート力を向上させることを目指した。

全教職員を生徒の研究活動のファシリテーターに位置付け、松浦市職員と協働して生徒の支援に当たることとした。支援の内容や方法については、事前に活動内容について確認し、事後にはカリキュラム開発等専門家による助言を踏まえた振り返りを行った。

また、フィールドワークをはじめとする地域との協働活動においては、地域協働学習支援員がコンソーシアム等との連携を図りながら、教職員の活動を支援した。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

プロジェクトチーム、ワーキンググループ及びカリキュラム開発等専門家等を交えて、月に1～2回程度、校長が主宰する意見交換会を開催し、研究開発の進捗状況の確認等を行うとともに、研究活動全般について検証し、その改善を図った。また、毎週水曜日の活動後は、今後の見通しなどをつけるために、意見交換を行った。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムの構成メンバーである松浦市の職員が生徒の研究活動のファシリテーターとなり、本校教職員とともに生徒の支援に当たっている。7月には、松浦市長を座長に選出し、研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図るために、コンソーシアム会議を行った。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定

①地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合（今年度目標：80%）

今年度は1～3年生に対する4月調査44.6%、2月調査47.9%であった。生徒の意識は高まっているが、目標にはまだ届いていないため、これからの課題研究活動において、生徒の主体性を高める取組を一層進める必要がある。

②高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職する生徒の割合（今年度目標：75%）

今年度は77.8%であった。地元で貢献したいとの意識の高まりが感じられる。

③高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したいと考える生徒の割合（今年度目標：60%）

今年度は1～3年生に対する4月調査48.3%で、2月調査では28.5%であった。コロナ禍で地元就職が厳しいという状況にあり、進学後の就職先も「都会志向」になったと推

察する。

- ④大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学した生徒の割合（今年度目標：35%）

今年度は64.2%であった。昨年度は7.4%であったことから、地域活性化に向けた課題研究と自らのキャリア・プランニングとつながりを一層強める取組ができた。

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標

- ①学校外での活動回数（今年度目標：35回）

今年度は30回であった。コロナ禍により、分散登校や県独自の行動制限等があったこともあり、活動回数を確保することが難しかった。

- ②先進校としての研究発表回数（今年度目標：3回）

構想研究発表、中間発表、校内発表の計3回実施した。2月10日に予定していた松浦市文化会館での課題研究発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期した。

- ③2年次の「まつナビ」の中で、フィールドワークにおいて地元の方にヒアリング・インタビューする生徒の割合（今年度目標：95%）

フィールドワークに参加した生徒の70.2%がヒアリング・インタビューを実践した。

- ④高校3年間の中で、地域への貢献活動・まちゼミ・地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合（今年度目標：70%）

今年度は地域におけるボランティア活動参加率は98.3%であった。

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標

- ①『まつナビ・プロジェクト』に関わった外部人材の人数（今年度目標：140人）

ファシリテーターとしての支援やフィールドワークにおける協力してもらうなど、今年度は184人が『まつナビ・プロジェクト』に関わった。

- ②コンソーシアムの活動回数（今年度目標：3回）

今年度は7月、2月、3月の3回実施予定であったが、1月26日に予定していた第2回会議は、コロナ禍により中止とした。（3月17日（木）松浦市文化会館会議室にて実施予定）

1.2 次年度以降の課題及び改善点

- ・今年度導入された生徒「1人1台パソコン」を活用する取組をさらに進め、本校単独の活動にとどまらず、県内外の高校や大学等とのネットワーク構築し、地域と学校活性化を目標とした学びを推進する。
- ・「課題研究活動が提案にとどまる班が多い」といった7月の第1回運営指導委員会での助言において、その課題を解決するために、発表会直前に「一夜漬け」のような研究活動を行うのではなく、実践活動から逆算した、研究計画について立案や考察させる取組を進める。
- ・「地域を大切に作る姿勢の育成が十分とは言えなかった」との課題を解決するために、コンソーシアムと協働して課題研究の具体的な活動（調査・研究、考察、実践）を支援する体制を構築する。
- ・過年度の活動を受け継いだ「新しさ」「斬新さ」に欠ける研究テーマが増えていることを解決するために、生徒が自らのキャリア・プランを念頭において、より主体的に課題研究テーマを設定することができる取組を行う。
- ・中学校と高校、高校と大学及び企業等が連携した生徒個々のキャリア形成の涵養とSDGs

を踏まえた地域課題解決型探究活動をさらに充実させていく。

- ・教科等横断的な学びを含む、生徒有能感を高めることができる教育活動の活性化と学習評価をさらに充実させる。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	095-894-3354
氏名	嶋藤 慶太	FAX	095-824-5965
職名	係長	e-mail	k-shimafuji@pref.nagasaki.lg.jp